

市長の強制
わいせつ告訴

市長と党議員が真相究明なげすて「幕引き、決議を強行

日本共産党は真相究明の集中審議を求める

□日本共産党提出の「真相究明の決議」を否決

6月市議会が開会した2日冒頭に、日本共産党、市議団が「中山市長が強制わいせつ容疑で告訴された問題を議会として真相の徹底究明をする決議」を提案。森まさる議員は出された質問に対して「100条委員会の設置も視野に入れ、プライバシーの点では十分配慮し、良識ある議員のみなさんのなかで集中審議は充分可能」と答えましたが、与党はこれを否決しました。

□与党会派は「自戒と反省を求める決議」を強行

石河議員から「市政への信頼回復」と「市長に自戒と反省を求める決議」が提案されました。共産党議員団は「何に自戒と反省なのか」「道義的責任はどうなるのか」「市長がメールで謝っている、告訴をしていないように議員が働きかけた」ことなどの事実を知って決議を出しているのかなど質問しましたが、「捜査当局に委ねる」「大宮に住んでいるので把握していない」など決議の根拠さえ明らかにすることができませんでした。与党議員のなかには徹底究明を口にしながら決議には賛成する議員や、市長に真相究明を求め採決時に退席する議員もありましたが、多数で強行可決させました。

日本共産党は、市長の政治的、社会的、道義的責任の究明は捜査とは次元を異にする、議会が本来果たすべき役割であり、この決議はそれを投げ捨てる自殺行為であることを明らかにし、反対しました。

□強制わいせつ容疑市長をかばうだけでなく、

擁護・激励する決議はゆるせません

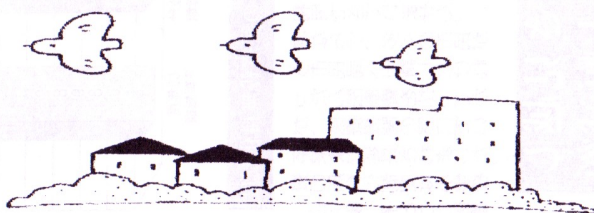
女性が強制わいせつ容疑で刑事告訴することは大変な勇気のいることです。また京丹後警察署が告訴を受け受理し捜査に入ったことは動かしがたい事実です。一方、市長は「お互い楽しく盛り上がった場だったので…訴えられたのは心外」と市長は容疑を否定し続けています。こうした時に、議会が真相の究明に力を尽くすことは当然の責務です。市民から「議員はこんな時に何をやっているのか」の声が高まっている中、擁護・激励するような議員では、市民の願いに応えることはできないのではないでしょうか。

□共産党議員団は幕引き決議に断固反対、徹底審議を求める

日本共産党は、告訴が明らかにされた5月18日（市長）自ら事実に基づいて真相の全てを速やかに明らかにすることを要求するとの見解を発表しました。また、市長に「真相を明らかにすることをとめる」。議長に「真相を明らかにするための集中審議」を求める申し入れを行ってきました。今回の「決議」は、真相を求める市民の声にこたえないばかりか、真相究明に「幕を引く」ものであり日本共産党は断固として反対しました。

□市民のみなさん、ご一緒に真相の徹底糾明、

清潔な京丹後市をつくりましょ



日本共産党 2005年6月2日発行

市会議員団ニュース

Tel 62-1159